地域性を意匠により付加した木製玩具開発に関する一考察
―木育推進玩具ポテトイの可能性について―

馬　場　拓　也

A study on the development of wooden toys with regional design, About the education for wood possibility of toy POTATOY

Takuya BABA

本稿では、筆者が 2018 年 9 月に第 82 回新制作展において発表した木育推進玩具 POTATOY（以後、「ポテトイ」とする。）について、意匠と地域性の関係性から生じる多面的な効果について利用者や消費者、そして生産者のそれぞれの視点から考察したものとなっている。

木にふれ、木の良さを体感することのできる木製玩具を木育推進玩具として開発することを試みた。そこで重要な要素として、道民らしさをどのように付加するかを考えることにした。なぜならば、道民に受け入れられ、積極的に使用いただけるものでなければ、木育の促進にはならないのである。そこで、木材の産地にこだわりを見せる一方で、意匠についても地域性を重視し、意匠と素材の双方から、子育て世代やその子どもにアプローチすることで、より地域を身近に感じ、地域産業林業・農業にふれながら遊ぶことのできる道産子らしい木製玩具の開発に取組んだ。

ポテトイ【図 1】は、北海道の広大で豊かな大地が育む食の代表作物の一つである「じゃがいも」を多面体で模した木製玩具であり、以下の特徴がある。

【木育】子育て世代とその子どもが「共に」「それぞれに」木に触れ、多様な遊びができる
【食育】　幼少期から地域の農産物に親しみを持つことができる
【保育】成長過程において立体的に物体を捉え、「思考力」「創造力」を発揮できる

材料は、道産材のカラマツ、トドマツを使用している。地域産業（林業・農業）に触れながら、「転がす」、「並べる」、「積み上げる」等といった遊びを通して地域社会と繋がりを持ち、創造性豊かな感性を育むことができるものを目指した。方法論的仮設として、「転がす」、「並べる」、「積み上げる」等を設定し、遊びを通して地域社会と繋がりを持ち、創造性豊かな感性を育むことができる。その有効性を実践的に検証するとともに第一に様々な遊び方が生まれ、第二に年齢による遊び方の特徴も現れたことがわかった。また、多くの施設や団体にポテトイを使用いただく過程で、現代の社会においては、木に無条件で好感をもつものだけではなく、木に対して不信感や危険性を感じている人も一定数いることがわかった。今後は、そのような点も含め研究していきたい。

【図 1】